

富沢館跡に説明板を新設しました!

富沢館跡は、仙台平野で確認されている中世の城館のなかでも最大級のもので、区画整理事業以前の富沢館跡は、土塁の一部が残っており、保存状態の良いことで知られていました。発掘調査では、中心部の周りを取り囲む大規模な堀跡が確認されました。土塁は、富沢館跡に関する遺構で唯一目に見ることができるものであることから、保存に向けた協議を行い、土塁を含む館跡の一部を公園として保存しています。説明板の後方にある高まりが保存された土塁です。(*公園は整備中のため現在、立入は制限されています。道路側よりフェンス越しにご覧ください。)



新設された説明板

郡山中学校ピロティの展示替えをしました!

太白区の仙台市立郡山中学校は、郡山遺跡の中にある学校です。現在の校舎建て替えに伴う発掘調査(昭和61年度)の際に、掘立柱建物跡等が見つかったため、校舎1階部分をピロティとして、遺跡を保存する構造で建てられました。ピロティには、建物跡が再現され、遺跡を紹介するパネルも展示されています。今回は改元に伴い、パネルの展示替えをしました。ピロティの見学は随時、文化財課で受け付けています。



展示替えをしたピロティ内部

今年も続々! 出前講座・出前授業!

仙台市文化財課では、大昔の土器や石器、瓦、昭和の民俗資料などを活用した出前講座・出前授業を実施しています。例年、たくさんのお申込みをいただいております。今年度も続々と実施しています。講義の形式から、実際に遺跡などを歩いて巡るフィールドワーク形式まで、ご要望に応じて文化財課職員が講師としてうかがいます。新しい仙台の魅力と一緒に感じてみませんか?



問合せ先: 文化財課 整備活用係
TEL: 022-214-8893

チェック! 令和元年度文化財イベントスケジュール

- | | |
|---|--|
| ○仙台城跡夏休み親子石垣見学会
日時: 令和元年7月27日(土)・8月17日(土)
場所: 仙台城跡 | ○第71回文化財展
日時: 令和元年11月20日(水)~24日(日)
場所: せんだいメディアテーク |
| ○文化財公開の日
日時: 令和元年11月3日(日)
場所: 龍宝寺ほか | ○第33回民俗芸能のつどい
日時: 令和2年2月8日(土)
場所: 日立システムズホール仙台 |
| ○第9回城下町せんだい日本伝統文化フェア
日時: 令和2年1月11日(土)
場所: せんだいメディアテーク | *この他に遺跡見学会なども予定しています。 |

遺跡見学会など最新の文化財関連情報は仙台市文化財課のホームページで!!
<https://www.city.sendai.jp/kurashi/manabu/kyoiku/inkai/bunkazai/>

この広報誌は雑紙としてリサイクルできます。



フケルくん

文化財 せんだい

No.124
令和元年(2019年)7月発行
仙台市教育委員会文化財課
仙台市青葉区上杉一丁目5-12
上杉分庁舎 10階
〒980-0011 Tel:022-214-8893

国の登録有形文化財になりました!

あおば じんじや たてものくん 青葉神社の建物群

青葉神社(青葉区青葉町)は、仙台藩祖の伊達政宗を祭神として、明治7年(1874)に創建された神社です。現在の境内は、大正末期から昭和初期にかけて計画的に整備されたもので、「本殿」、「中門及び祝詞舎」、「透塀」、「拝殿」が建築されました。一方、「神饌所及び伝供廊」は、伊勢神宮の撤下古材(建て直した際に出た古材)を用いて建築されたと伝えられます。また、「旧愛姫社鞘堂」は、政宗の正室である愛姫を祀る神社が安置されていた建物です。良質な材料を用いて丁寧に作られた建築群により、統一感を持った境内景観が形成されています。平成31年3月に境内の建物6件が国の登録有形文化財となりました。



青葉神社本殿・中門及び祝詞舎・透塀(南から)

みやぎの なつとうせいぞうじょ たてものくん 宮城野納豆製造所の建物群

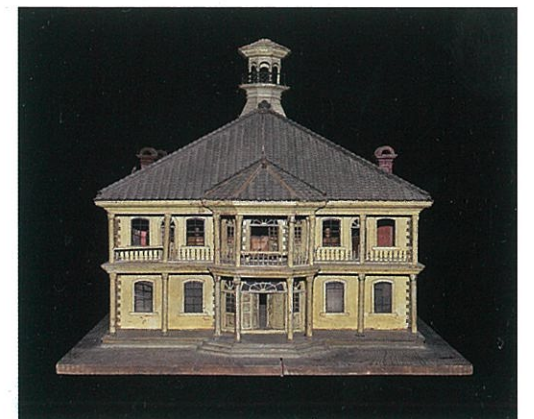
宮城野納豆製造所(宮城野区銀杏町)は、大正9年(1920)創業の、納豆と納豆菌の製造所です。昭和9年(1934)に現在地に移転し、発酵温度の調整ができる「三浦式納豆室(文化室)」を開発して、納豆の近代的製造法の確立に貢献しました。敷地内には、昭和20年代までに建てられた工場「納豆及び納豆菌製造棟」、「熟成棟」や倉庫「石蔵及び豆小屋」、「ボイラー室」、「垂炭小屋」、「車庫」、そして「休憩室」が並び、納豆や納豆菌の製造過程、及び製造技術の発展の様子を知ることができます。平成31年3月に敷地内の建物7件が国の登録有形文化財の答申を受けました。



宮城野納豆製造所の建物群(南西から)

とうほくだいがく けんちく しりょうくん 東北大学の建築資料群

東北大学に保管されている、建築に関わる資料群2件が、平成31年3月に国登録有形文化財の答申を受けました。「官立高等教育機関宮繕組織近代建築図面(東北帝国大学宮繕課旧蔵)」は、第二高等学校など、東北大学の前身となった官立高等教育機関等の建築図面類1139点からなります。明治から昭和にかけての資料群で、建物の内容だけでなく、設計機関や設計者について具体的に知ることができます。「建築教育・研究資料(仙台高等工業学校建築学科旧蔵)」は、東北大学の建築教育の前身となった、仙台高等工業学校建築学科の建築教育・研究資料1437点からなります。建築学科新設から東北大学に合併されるまでの昭和期に収集・製作・使用された資料群であり、当時の実際の教育・研究内容を知ることができます。



宮城県会議事堂 建築模型
(写真: 東北大学大学院工学研究科都市・建築学専攻提供)

重要文化財 木造釈迦如来立像がもどってきました!



重要文化財木造釈迦如来立像

京都で修理が行われていた龍宝寺(青葉区八幡)の木造釈迦如来立像が、今年3月、無事に龍宝寺へ戻り、釈迦堂へ安置されました。また、普段像が納められている厨子は、引き続き令和元年(2019)11月頃まで修理が行われる予定です。現在は期間限定で厨子に入っていない状態の像を拝観することができます。龍宝寺の釈迦如来立像は、鎌倉時代の作と考えられており、約320年前の元禄9年(1696)頃に、仙台藩四代藩主の伊達綱村の命により京都で修理を受けたことが明らかになっています。このとき、厨子や光背・台座のほか、釈迦如来立像の左右に安置される文殊菩薩坐像・普賢菩薩坐像の2体の仏像が新たに造られました。

今回の修理により、厨子は高さ約3.3m、重さ約500kgに及ぶことが分かりました。しっかりとした作りで、像全体を納めることのできる特別なものと言えます。現在は、おそらく江戸時代の修理以来はじめて、像全体が厨子のない状態で安置されているのではないのでしょうか。なお、像の拝観を希望される際は、必ず事前



修復を終えた台座(写真下3枚)

(側面の彫刻は、鯉が龍にかわるという「登竜門」の伝説を表している)

龍宝寺
仙台市青葉区八幡四丁目8-32
電話 022-234-0005(代表)

ユネスコ無形文化遺産登録10周年を迎えました!

今年は「秋保の田植踊」がユネスコの『人類の無形文化遺産の代表的な一覧表(代表一覧表)』に登録され10周年となる節目の年です。秋保の田植踊は、馬場・長袋・湯元の3地区に伝わる豊作祈願の民俗芸能“田植踊”の総称で、その華やかさと洗練された踊りが高く評価され、昭和51年(1976)には、国の重要無形民俗文化財に指定されています。代表一覧表は、『無形文化遺産の保護に関する条約』に基づき、芸能や工芸技術、社会的な慣習などの無形文化遺産を、国際的に保護していくために作成されるリストです。現在、全世界で429件、我が国では21件が登録されています。秋保の田植踊は、民俗芸能としては最も早い平成21年(2009)に、代表一覧表に登録されました。例年4~5月には、地元の寺社で奉納されますので、お祭りの雰囲気も楽しみながら、ぜひ現地でご覧ください。

* 秋保の田植踊の主な上演日 *

- 4月中旬 長袋神明社例祭(長袋の田植踊)
- 4月29日 秋保大滝不動尊春季例祭(馬場の田植踊)
- 5月5日 薬師堂例祭(湯元の田植踊)

* 詳しくは文化財課までお問い合わせください。

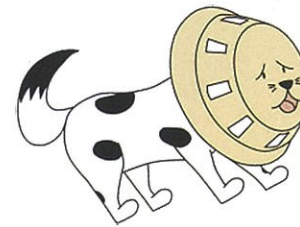


馬場の田植踊の早乙女(左)と弥十郎(右)

京ノ中遺跡の遺跡見学会を開催しました!

京ノ中遺跡(太白区富田)では平成30年10月から、面積2100㎡の発掘調査を行いました。調査成果として、8世紀末~9世紀前半頃の竪穴住居跡を中心とする平安時代の集落跡と、平安時代~中世頃の木柵跡と溝跡で区画された範囲に数棟の掘立柱建物跡が見つかり、この場所での居住形態の変遷を確認することができました。

平成31年2月16日(土)に開催された遺跡見学会では、冷たい風が吹く中、約160名の市民の皆さまにご参加いただきました。当日は、火災にあって焼失した平安時代の竪穴住居跡が注目され、参加者は文化財課職員の説明に耳を傾けながら、当時の生活に思いを馳せていたようでした。



遺跡見学会の様子(火災にあった竪穴住居跡)

「万葉集の時代」第1回

2019年5月1日、30年続いた「平成」の時代は、改元によって「令和」となり、新しい時代が始まりました。「令和」とは万葉集第5巻、梅花の歌32首の序文に由来するという事です。

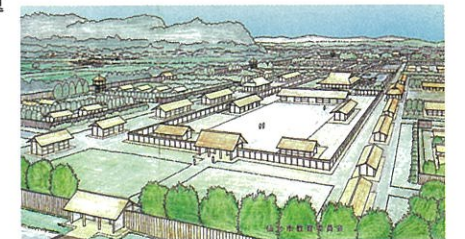
初春の令月にして、氣淑く風和ぎ、梅は鏡前の粉を披き、蘭は珮後の香を薫らす。

「人々が美しく心を寄せ合う中で、文化が生まれ育つ。梅の花のように、日本人が明日への希望を咲かせる国でありますように。」という願いが込められています。さて、その由来となった万葉集は、7世紀後半から8世紀後半(飛鳥~奈良時代)にかけて編まれた日本に現存する最古の和歌集です。天皇、貴族から下級官人、防人、大道芸人など、さまざまな身分の人々が詠んだ歌4500首以上を集めたものです。

今年度は、改元の由来となった「万葉集の時代」を、歌と仙台の遺跡を通してシリーズで見たいと思います。

◇郡山遺跡(太白区郡山)

万葉集の編纂が始まったとされる飛鳥時代。太白区郡山には、陸奥国府としての機能をもった郡山遺跡(役所)がありました。陸奥国府多賀城の前身施設で、428m四方を材木列で囲んでいました。遺跡の南側には付属する寺院もありました。遺跡からは、瓦や役人が使った道具、在地系・関東系・畿内産の土器(土師器)などが出土しています。他の官衙跡には見ることができない石組池も見ついています。この施設は大和朝廷に属していなかった蝦夷の服属儀礼に使われていたものと考えられており、郡山遺跡の当時の特殊性がうかがえるものです。平成18年度には、「仙台郡山官衙遺跡群 郡山官衙遺跡 郡山廃寺跡」として国の史跡に指定されています。



郡山遺跡の復元図(イメージ)



発掘された石組池